

編集後記

こどもかいが始まる数日前から、各クラスの先生たちは保育室の整理や子どもたちと作った装飾を飾ったりせっせと準備をしていました。そんな中、一人の先生の「こどもかい」と書かれたメインの看板が目にとまりました。「あれ、先生は習字習ってたの?」と聞くと、「あ、いえ、実は私のおかあさんが字を習っていて書いてくれたんです・・・」とのこと。ここからは単なる妄想です。ああきっと自分の娘が頑張っている姿を受けて私も何かしてあげたいことができることはないかしらという思いを込めて寝る間を惜しんで書きしたためそっと渡してくれたに違いないああきっとそう・・・

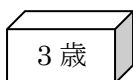
この深い話しは、親であり子どもであった保護者の皆様にもきっと思い当たることがあるのではないのでしょうか。こどもかいでのお楽しみ、お父さんお母さんのげきは子どもたちへ直接届けられる思いですが、取り組み期間中に励ましたり話を聞いてあげたり一緒に考えたりしたことは、子どもにとって何よりの支えと励みになっていて、そんな生活の中の所々にある間接的なかわりがあるからこそ、当日の口には出さない親の願いと（担任も!）、子どもたちのうれしい、やりたい、見せたいといった双方の思いがカタチとなって現れていたのではないかと思います。

もう一つに、子どもたちも?!口に出しませんが、この時期この取り組みを通して彼らは「他者を見て、自分を知る」ことを学んでいます。周りを見て動いたり発言したりすることが増え、自分と違う考えや表現を知ることによって物事の多様性に触れ、さらに年長さんともなると、「他者を感じる」ことで発言や動きを変えたり合わせたりすることができていて、子どもたち同士の刺激と相乗効果による高まりが相まって、各学年それぞれの子どもたちが自分をバージョンアップさせているのを感じることができました。これから先と、ずっと先まで、楽しみな子どもたちです。

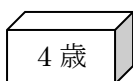
実際には言葉だけでは伝わらない互いに内に秘めた思いは必ずあります。そんなときにはいい妄想を駆使してメンタルを安定させるのも悪くないな、とも感じた次第です。

あらためまして、保護者の皆様のこどもかいへの参加協力に感謝申し上げます。

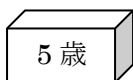
今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）



- ・友達とあそびのイメージを広げ、言葉を交わしながら遊ぶ
- ・劇ごっこなど、ここが面白いと感じたところを思い切り楽しんでみる
- ・異年齢でのかかわりを持ち、親しむ
（中長の劇をみる・おもちゃつき・誕生会・クリスマスなど）



- ・おもしろそう、やれそうと思えることに、自分からかかわって繰り返し取り組む
- ・自分の力を発揮するうれしさを感じる
- ・クラス全体でまとまってすると楽しい遊びや活動を経験し、実感する



- ・ドッジボールや鬼ごっこなど、ゲームやルールのある遊びを大勢の友達と一緒に楽しむ
- ・互いにアイデア・イメージを出し合って、話し合ってクラス共通のものにする
- ・全体を見渡して、必要に応じて援助しあうことができる